

シンガポールから学ぶ人口対策

所属ゼミ バートルゼミ

発表者 宮下遼雅、韓承東、嶋崎一晴

1. 目次

- ・研究背景、目的
- ・日本とシンガポールの出生率と経済
- ・移民対策が少子高齢化対策に
- ・日本とシンガポールの税制の違い
- ・移民が増えることのメリットとデメリット
- ・技能実習制度から育成就労制度へ
- ・まとめ

2. 研究背景

近年、日本をはじめ世界中で少子高齢化問題が社会問題となっている。日本は様々な対策を講じているが、出生率は一向に上がらず下がる一方である。そこで、同じアジアに位置し、少子高齢化問題を抱えながらも経済成長が著しいシンガポールに焦点をあてて、日本の状況と比較しながら日本として学ぶべき点や取るべき対策について考えたい。

3. 研究内容

シンガポールの少子高齢化の現状や対策をはじめ、日本の出生率や経済状況についての文献調査を行ったが、シンガポールは世界でも移民政策に成功している国だと言われている要因が判明した。シンガポールは移民の受け入れ政策を行うことで、少子高齢化自体は止められていなくても、労働人口の減少を抑えることに成功している。日本との違いは、法人税の低さやビジネスのしやすさ、そして移民の住みやすさなどが移民や海外投資家・企業を引き付ける魅力があり、それが人口の減少や高齢化の対策につながり、経済の発展に寄与しているのである。一方、日本は技能実習制度から育成就労制度へと転換し、労働人口の確保を目指した政策が取られることが決まっているが、シンガポールのように海外からの労働者にとって魅力のある国にしていくためには、シンガポールから学ぶところが大きいであろう。

4. まとめ

シンガポールの少子高齢化は日本以上に深刻であるが、海外からの投資家や企業、そして移民を引き付ける魅力をもっているため、海外からの人口流入により間接的に人口の高齢化対策に寄与している。このため、日本としては、改めて出生率を上げるための政策の検討、海外からの労働者が暮らしやすい環境づくり、技能実習生制度の総括を行いながら育成就労制度をより充実したものにしなければならない。同時に、移民政策についても検討すべきと考えられる。